

# ひまわり



令和2年9月1日(火)

## 防災の日



大正12年（1923年）9月1日、関東大震災が起こりました。この日に由来し、本日は「防災の日」となっています。

日本は、世界の中でも有数の自然災害の多い国です。その理由として、次のようなことが挙げられます。◇日本列島は4つのプレート（地球を覆う厚さ100kmほどの移動する岩盤）の上にあり、地震活動や火山活動が活発である。◇列島中央の山間部から海までの距離が短く、川が急流になる。◇気候区分がアジアモンスーン気候であり、梅雨と台風の時期に大雨が降る。

とりわけ、地球温暖化による気候変動で、近年は巨大台風が日本を襲うことも珍しくない状況です。本日の沖縄も、台風9号により大荒れの天候となっています。

ところで、災害が起こった時に頼りになるのは何でしょうか。洪水や土砂崩れなどで孤立してしまった時、すぐには公的な救援（公助）を期待できないかもしれません。それは、多くの人が救援を求めており、公的な救援の手が回らないからです。

このような時に大切になってくるのが、人々が互いに助け合うことです。これを共助といいます。その代表的なものが、日頃から顔を合わせている近所の人々との助け合いです。自分で災害への備えをする自助、それに共助が加われば災害から助かる道があるのです。その上で公助を待つことになります。

災害に対する備えは、ライフラインの強化なども大切ですが、それだけでは不十分です。日頃から人と人とがふれあい、互いに心を通わすことのできる人に優しい社会が、災害に対して大きな力を発揮すると思います。

このような社会をつくるためには、日常からご近所づきあいを大切にすることが重要です。その第一歩として、近所の方々と「笑顔であいさつを交わす」ことを実践してみませんか。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

